

資料2 住まいの安全対策

地震は突然発生するので日頃の備えが大切です。
備えることで危険は減らすことができます。(P4参照)

住宅の耐震化

- 昭和56(1981)年に、住宅の建物の強さを定める基準が大きく変わりました。この年以降に建てられているかどうか、自分の家の強さを知る一つの目安になります。
- 古い耐震基準で建てられた建物は、大地震により倒壊するおそれがあります。耐震診断を受け、その結果に応じた耐震補強を行いましょう。
- 門柱やブロック塀なども同様に補強しましょう。



火災対策

- 災害後の電気復旧時に、通電したヒーターなどが原因で火災が発生する可能性があります。自宅のブレーカーの位置を確認し、避難するときに確実にブレーカーを落とすようにしましょう。



- ストーブやガス器具などは自動消火装置がついているものを使用したり、カーテン、カーペット、寝具などを不燃性のものにするなど工夫をしましょう。



- 初期消火ができるように消火器を準備しておきましょう。いざという時にあてないよう、防災訓練などに参加して使い方を覚えておき、有効期限なども点検しておきましょう。



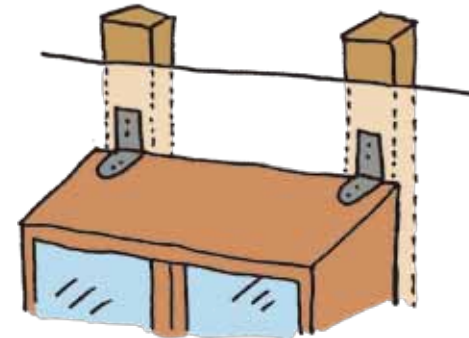
阪神淡路大震災では、熱帯魚の水槽のヒーターから発火した事例が多数報告されているモン

- 煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる住宅用火災報知器を設置しましょう。(平成16年の消防法の改正で設置が義務付けられています。)



家具の固定など

- タンス、食器棚などの大きな家具類などは、市販の固定金具などを使って固定しましょう。



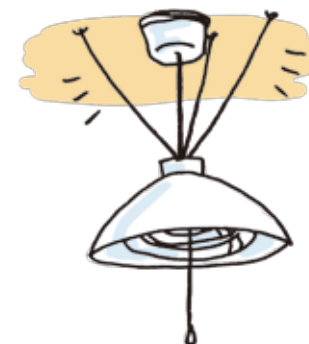
- 寝室や出入口付近には、転倒しそうな家具は置かないようにしましょう。



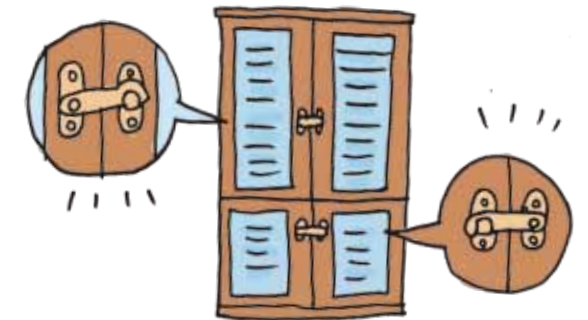
- 重たいものやガラス・陶器類などは、高いところに置かないようにしましょう。



- 吊り下げ式の照明器具は、鎖と金具を使って数箇所留めて補強しましょう。



- 戸棚の開き戸にはストッパーなどをつけましょう。



- テレビは粘着マットやストラップ式の固定器具などでテレビ台に固定するか、壁に金具と紐で固定しましょう。



- ガラス飛散防止の透明フィルムなどを貼るとともに、スリッパなどを身近な所に置きましょう。



- プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定しましょう。

